

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03 (3581) 6211 (代表)
定価 1部 108円(税込み)
<毎週火曜日発行>

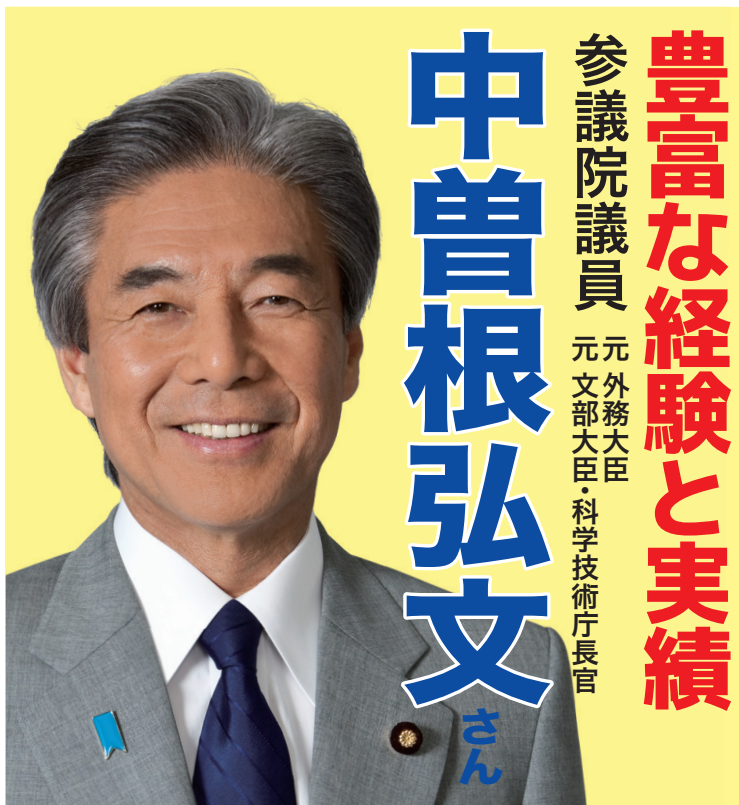


自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

豊富な経験と実績

参議院議員 元外務大臣 元文部大臣・科学技術庁長官

中曽根弘文



中曽根弘文参議院議員は、議員活動三十年目となり、初当選以来、中小企業対策、医療・福祉対策、農林業対策、外交・安全保障問題など幅広い分野で活動してきました。

特に「国づくりは人づくりから」をモットーに教育問題にも力を入れ、平成十一年には小渕内閣で文部大臣に就任、「教育改革国民会議」を発足させ、教育改革に取り組み、平成十八年には教育基本法に関する特別委員長として戦後教育の大きな課題であった「教育基本法」の改正を成し遂げました。

また参議院としては異例の二度目の入閣で、重要閣僚である外務大臣に就任し、国際問題に対する広い視野と優れたバランス感覚で、日米関係を始める諸外国との外交交渉に手腕を発揮してきました。

自民党が野党であった平成二十二年から三年間は参議院自由民主党の最高ポストである議員会長を務め、参議院の改革に取り組むとともに自民党の政権復帰にも大きく貢献しました。同時に、自民党群馬県連の会長としても衆参国政選挙、各種地方選挙で先頭に立ち、県政運営の安定・発展に力を尽くしました。

清潔で誠実な人柄から、与野党を越えて信頼も厚く、豊富な経験と内外各界の要人との太いパイプを有し、政界のリーダーとして国政に取り組んでいます。

八月三日には次期参議院議員選挙の自民党公認候補として決定し、今後益々の活躍が期待されています。

地域の活力を取り戻す!!

ごあいさつ

安倍内閣は、アベノミクスによるデフレ脱却・経済再生を最優先課題として、外交の立て直し、社会保障の充実、教育再生、安全保障関連法制の整備、憲法改正など、国家の基本となる重要課題に全力で取り組んでいます。

現在、日本の景気は総体的に上向いてきていますが、地域の経済に真に元気が戻らなくては、本場に日本の経済が回復したとは言えません。群馬県は高速道路や新幹線など、日本の東西南北をつなぐ重要な位置にあります。こうした地の利も生かし、製造業や商業ばかりでなく、全国でも有数の生産高をほこる農林畜産業や、豊かな自然と世界遺産を活用した観光業など、様々な分野で産業の活性化を図っていくかなくてはなりません。私は、この「ローカルアベノミクス」を推進していくことを最重要課題として取り組んでいきたいと考えています。

皆様のご指導・ご支援のお陰様をもちまして参議院議員として五期三十年となりました。この間、文部大臣や外務大臣、参議院議員会長など、数々の重要な役職も務め、国家の重要課題にも全力で取り組んでまいりました。現在も引き続き、教育の改革や海外要人とのパイプを生かした議員外交を始めとする内外の課題に取り組んでいます。二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに関しては組織委員会の顧問として、また特に「障害者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟」の会長として、大会の成功に向けて準備を進めているところです。

私は引き続き全力で真摯に、群馬と日本の発展のために力を尽くしてまいりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

プロフィール

(平成二十七年八月現在)

中曽根弘文

なかそねひろふみ

群馬県選挙区選出

当選五回

昭和二十年十一月二十八日 高崎市生まれ



くんまちゃんど

昭和四十三年 慶應義塾大学卒業、旭化成工業(株)(現旭化成)入社
昭和五十八年 旭化成工業(株) 退社

昭和六十二年 内閣総理大臣秘書、自民党総裁秘書(兼務)
参議院議員初当選(現在まで連続五回当選)
通商産業政務次官

平成五年 参議院 商工委員長
平成九年 参議院 議院運営委員長
平成十年 参議院 自由民主党 政策審議会 会長

平成十二年 参議院 国鉄債務処理及び
国有林野改革特別委員会 委員長
文部大臣、科学技術庁長官(小渕内閣)

平成十三年 内閣総理大臣補佐官(教育問題担当)
参議院 政治倫理審査会 会長

平成十四年 裁判官弾劾裁判所 裁判長
参議院 予算委員長

平成十六年 自由民主党 中心市街地再活性化調査会 会長
参議院 教育基本法に関する特別委員会 委員長
参議院 懲罰委員長

平成十九年 参議院 懲罰委員長
平成二十年 外務大臣(麻生内閣)

平成二十一年 自由民主党 党紀委員会 委員長
自由民主党 群馬県支部連合会 会長

平成二十二年 参議院 自由民主党議員会長
自由民主党 党紀委員会 委員長

平成二十五年 自由民主党 青少年健全育成推進調査会 会長
自由民主党

平成二十六年 参議院
北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会 委員長
自由民主党

日本の名誉と信頼を回復するための特命委員会 委員長



中曽根外相とクリントン國務長官(当時)



「日・露税関相互支援協定」署名後は麻生総理とアベチン大統領(当時)

中曽根弘文さんの活動

外交、教育文化、地元群馬のために活躍する中曽根さんの活動の一部を紹介します。

外交

議員外交を積極的に展開



「日米友好議員連盟」会長としてケネディ大使、バイデン副大統領と会談。同盟国である米国との関係強化のため議員交流を積極的に進めている。

日本の名誉と信頼の回復のために

「日本の名誉と信頼を回復するための特命委員会」の委員長を務め、慰安婦問題や朝鮮人強制労働をめぐる歴史認識に関する対外発信の強化を政府に求める提言を取りまとめ安倍総理に提出。国際機関などに対する広報活動の強化を政府に求めた。



一日も早い拉致問題の解決を



「北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員長」として、横田夫妻と意見を交わす。全ての拉致被害者の一日も早い帰国を実現のため、政府と一体となって取り組んでいる。

ポーランド・メキシコ両国大統領より勲章を受章

ポーランド・メキシコ両国の友好議員連盟会長を永年務め日本と両国それぞれの友好関係強化の貢献により、両国大統領より直々に勲章を授与された。



ポーランド大統領

左からメキシコ大統領・緒方貞子氏

ASEAN各国との関係強化

「参議院ASEAN議員交流推進議員連盟」会長として、ASEAN各国との友好関係強化にも努めている。



教育・文化・スポーツ

障がい者スポーツの普及を目指す

超党派の「障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟」の会長として、ソチパラリンピック、仁川・パラアジア大会などを視察。2020年の東京パラリンピックに向け、競技の強化だけでなく、バリアフリー化などについても真剣に取り組んでいる。



幼児教育振興のために

我が国の将来を担う子供たちのために、自民党の「幼児教育議員連盟」会長として「幼児教育の無償化」を始めとする幼稚園・保育園のための政策作りや予算の拡充に取り組む。



全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会

を担う子どものために - 家族の絆に心ゆたかな-

東京オリンピック招致に貢献

「東京オリンピック・パラリンピック招致議員連盟」の副会長としてアルゼンチンで行われたIOCの総会に出席。外務大臣時代の人脈を生かしてロビー活動に奔走し、東京オリンピックの開催決定に大きく貢献。



ボーイスカウト世界ジャンボリー

仲間と共に大自然の中で、誠実・勇気・奉仕の精神を学ぶボーイスカウト活動は、教育においても素晴らしい活動であり、平成27年8月に山口県で開催された世界スカウトジャンボリーにも議員連盟の副会長として参加した。



歌舞伎と京劇で文化交流

史上初の「日中京劇・歌舞伎同時公演」を北京で開催。自民党の「歌舞伎振興議員連盟」会長としてこのイベントを実現。中日友好協会会長の唐家璇氏(元外交部長官(中国の外務大臣))とも会談。今後の日中関係改善について意見を交わす。(右から尾上菊之助氏・唐家璇氏)

地元 群馬

豪雪被害への支援を要請

群馬県内に甚大な被害をもたらした平成26年の豪雪では、すぐに県から被害状況を聞き取り、石破幹事長(当時)や林農林水産大臣(当時)に対し、政府の早急な対応を求めた。結果、国と地方の補助率の9割までの引き上げを実現。



ハンセン病療養所入所者を支援

「ハンセン病対策議員懇談会」の会長として、草津の栗生楽楽園や香川県の大島青松園などを視察。高齢化が進んでいる入所者及び退所者の方々が安心した生活ができるよう、政府に対し処遇の改善を求め、大きな成果をあげている。



しいたけ産業の再生と消費の拡大に向け

東日本大震災による原発事故の影響で、大変な打撃を受けたしいたけ産業再生のため、「しいたけ等特用林産振興議員連盟」会長として各大臣への要請を始め様々な支援策を講じ、大幅な補正予算を確保。(きのご料理コンクールで会長として表彰)



陸上王国群馬復活へ

「日本陸上競技連盟評議員会」議長、また「群馬陸上競技協会」の会長として、元旦のニューイヤー駅伝はもちろん、国内外の様々な大会に足を運ぶ。近年、群馬県は長距離競技を中心に各種大会で好成績を収めており、「陸上王国群馬」の復活を目指す。



群馬県へのアクセスをより快適に!

地元関係者から多くの要望を受け、高崎玉村スマートICの開通や、騎寄スマートICの大型車対応に尽力。他県から群馬へのアクセスが便利になるだけでなく、県内の開発・発展、物流改善や雇用創出に大きく繋がると期待される。



ここだけの話① 失敗を教訓に

1999年11月15日宇宙開発事業団種子島宇宙センターより発射されたH2ロケット8号機は、打ち上げから約4分後に制御不能により爆破され海中に没しました。発射に立ち会った当時の文部大臣・科学技術庁長官の中曽根さんは即座に事故機の回収を指示し、小笠原沖水深約3000mの海底に沈んでいたロケットエンジンを海底から回収するなどして原因究明に徹底的に取り組みました。その成果は、後継のロケットの開発体制にしっかりと反映され、現在のH2Aロケットの連続打ち上げ成功へと、我が国のロケット技術は世界的な信用を得るまで大いに飛躍しました。



海底から回収されたエンジン

ここだけの話② 安倍総理の米国議会演説

安倍総理の米国議会上下両院合同会議での演説は各国から高い評価を受け、大きな成功を収めました。実は、この演説が決まる以前に、中曽根さんは「日米国会議員連盟」会長として何度も訪米して米国議会の主要な人物との会談を繰り返し、早くからこの演説の実現のために動いていました。外務省はもちろんですが、米国議会とのパイプのある中曽根さんのそのような水面下の働きかけの成果もあり、日本の総理大臣が5年ぶりに米国議会に立ち演説をするといった歴史的瞬間に繋がりました。



クリー国務長官と